

断法の基礎としての実験にとまった。

*

13. 各種疾患におけるレノグラムの解析

加藤篤二 上山秀磨<泌尿器科>
高安正夫 平川顕名 田村忠雄
<第3内科>
(京都大学)

われわれは、 ^{131}I -hippuran あるいは ^{131}I -sodium iothalamate レノグラム曲線について、アナログ計算機によるシミュレーションを行なってその解析を試みているが、今回、各種疾患におけるレノグラムの解析の具体例を示した。

(1) 腎血管性高血圧：左腎動脈狭窄による高血圧の症例で、レノグラムシミュレーションでは、左 RPF の低下および排泄遅延がみられた。

(2) 本態性高血圧：レノグラム曲線は、日によってその形が変り、シミュレーションより RPF の値にも変動がみられた。

(3) 心不全患者における術前・術後のレノグラムの変

化：目立った変化は曲線のの立ち上り部分にみられ、術前階段状であったものが術後は一直線となり、一方、一回心拍出量も著明に増加している。

(4) 降圧剤の影響：malignant nephrosclerosis の患者に降圧剤を投与した時の変化で、投与前の GER 100 ml/min, 投与後 50ml/min となった。

(5) レノグラムと腎生検：Nephrotic syndrome の患者で、RPF 400ml/min, GFR 140 ml/min をいうシミュレーションの結果と腎生検の minimal change group という所見とがよく一致した。

(6) 腎腫瘍：レノグラムによっても、ある程度以上の大きさの腫瘍は、シミュレーションによって、RPF の差がでてくる。

(7) 腎移植：レノグラム、シミュレーションによって、腎機能を RPF で評価することができる。

質問：平川顕名 (京都大学高安内科)

「レノグラムの再現性について御意見は」

答：上山秀磨

必ずしも再現性に乏しいとは思わない。同一患者にくり返しレノグラム検査を行なった経験では、かなりの再現性がえられるように思う。

*

*

*

*

*

*

*

*

*